



問1.【受診勧奨】受診勧奨が適当なら○、セルフメディケーションが可能なら×を記入して下さい。

注意！：受診勧奨の際、私達は診断ができないので、思い当たる病名などを口に出さないように注意しましょう。

(1) 受診を勧めるべき生命に関わる緊急性の高い重大な症状ではないか？

- ①いつもおなかが張っている感じ。最近では貧血ではないかと思うことがある。40代になってからは何年も検診を受けていない。
- ②還暦を祝ってもらった半月ほど前から、背中が痛むことがある。何となく食欲がなく、食べてもすぐにお腹がいっぱいになる。目が黄色くなってきているような気がする。

(2) その他、受診を勧めるべき症状ではないか？

- ①以前から血液検査で肝機能の値を指摘されていたのだが、最近はおなかが張った感じがして食欲も振るわず、体重が減ってきた。倦怠感もある。
- ②胸焼け^{どんきん}が頻繁に起こる。
※：胃液がのどの奥や口までこみ上げて、酸っぱく感じる。
- ③(20～30代の女性)昨日から気持ちが悪くて、体もだるい。好きなものも食べたいと思えない。妊娠検査薬で調べたら陽性だった。
- ④食欲がなくて体重が減ってきた。この半月くらい、以前は好きだったことが楽しめず、眠れないこともあって、午前中は特にやる気が起きない。
- ⑤食後に胃もたれ、満腹感、胃痛・吐き気がする。糖尿病の既往歴アリ。

問2.【セルフメディケーションでも対応できる胃の症状】空欄に当てはまる適語を下欄から選んで下さい。

(1) 胃腸薬の承認基準における胃症状の効能・効果は主薬とする成分群ごとに四分類されている。

I 欄 ((①)、ロートエキス)：「胃酸過多、胸やけ、胃部不快感、・・・、胃痛」

II 欄 (健胃生薬、(②)、乾燥酵母など)：「食欲不振(食欲減退)、胃部・腹部膨満感、消化不良、胃弱、・・・」

III 欄 (消化酵素、(③))「消化促進、消化不良、食欲不振(食欲減退)、食べ過ぎ(過食)、・・・」

VI 欄 ((④)、局所麻酔成分、鎮痛生薬)「胃痛、腹痛、さしこみ(疝痛、癢)、胃酸過多、胸やけ」

これらを相互に配合したり、VII 欄 ((⑤)、アルジオキサ等の胃粘膜の炎症を抑えて修復を促す成分群)、VIII 欄 (ジメチルポリシロキサン) の成分を加えたりして製品が作られている。

(2) 心窩部痛や胃もたれなどが続いたり、繰り返したりする場合には受診勧奨が必要だが、検査しても異常がないなら、酸抑制薬(プロトンポンプ阻害薬、ヒスタミンH₂受容体拮抗薬)、漢方薬(⑥)、運動不全改善薬(⑦)、トリメブチンマレイン酸塩などが有効である。

- | | | |
|---------------------------------|----------------|------------|
| A. イトプリド塩酸塩(R8.9.28 指定第2類移行見込み) | B. アズレンスルホン酸Na | C. 塩化カルニチン |
| D. ランソプラゾール | E. 六君子湯 | F. 黄連解毒湯 |
| G. 胆汁成分 | H. 制酸成分 | I. 抗コリン成分 |

問3.【一般用医薬品の使い分け】

(1) 次の説明に該当する胃腸薬成分を下欄から選んで下さい。

- ①副交感神経の刺激による胃液及び膵液の分泌促進並びに消化管運動亢進作用があると考えられている。
- ②胃腸運動機能の低下中なら亢進、亢進中なら抑制する消化管運動調律剤。末梢性鎮吐作用も有する。
- ③胃内の気泡は排出しにくく膨満感のもと。本成分と接触した部分では表面張力が強く減少するため破泡する。
- ④利胆、肝細胞障害抑制、脂肪酸吸収促進、胆石溶解、コレステロールの腸管吸収抑制などの作用がある。
- ⑤含有する諸成分が総合して栄養補給、代謝機能促進、食欲増進、整腸などの薬効を現す。

- | | | | |
|-----------------|----------------|-------------|-------------|
| A. トリメブチンマレイン酸塩 | B. ウルソデオキシコール酸 | C. 乾燥酵母 | D. カルニチン塩化物 |
| E. ジメチルポリシロキサン | F. ジアスターゼ | G. イトプリド塩酸塩 | |

(2) 次の胃の症状についての効能・効果を持つ、承認基準に基づく漢方製剤を下欄から選んで下さい。

- ①体力に関わらず使用でき、のどが渇いて尿量が少ないもので、めまい、はきけ、嘔吐、腹痛、頭痛、むくみなどのいずれかを伴う次の諸症：水様性下痢、急性胃腸炎(しぶり腹^{注)}のものには使用しないこと)、暑気あたり、頭痛、むくみ、二日酔 注) しぶり腹とは、残便感があり、くり返し腹痛を伴う便意を催すもののことである。
- ②体力に関わらず使用でき、悪心があり、ときに嘔吐するものの次の諸症：つわり、嘔吐、悪心、胃炎
- ③体力中等度で、みぞおちがつかえた感じがあり、ときに悪心、嘔吐があり食欲不振で腹が鳴って軟便又は下痢の傾向のあるものの次の諸症：急・慢性胃腸炎、下痢・軟便、消化不良、胃下垂、神経性胃炎、胃弱、二日酔、げっぷ、胸やけ、口内炎、神経症
- ④体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときにははきけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のあるものの次の諸症：食べ過ぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振
- ⑤体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

A. へい い さん 平胃散	B. にんじんとう り ちゅうがん 人參湯(理中丸)	C. しょうはんげかぶくりょうとう 小半夏加茯苓湯	D. ごれいさん 五苓散	E. りっくんしとう 六君子湯	F. はんげしゃしんとう 半夏瀉心湯	G. はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯
-------------------------------	---	--	-----------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

問4.【患者情報確認・生活スタイル】一般用胃腸薬(第1類を除く)の添付文書に照らして、最も適当な語句を選んで下さい。(今回は主に胃腸鎮痛鎮痙薬に配合される成分は最小限にした。⇒第3講座『胃痛及び腹痛』)

- ・(①)は、食道下部括約筋の圧力を低下させる働きがあるため、「胃食道逆流症」には適さない。
- ・(②)は、抗コリン作用により効果を示すが、「心臓病の診断を受けた人」に対する注意の記載がない※。一方、妊婦又は妊娠していると思われる人は服用できない。
※：従来からの抗コリン剤には、緑内障、心臓病、排尿困難の該当者について、相談事項として注意の記載がある。
- ・(③)は、動物実験(ラット)で妊娠前及び妊娠初期の大量(2,000mg/kg/日)投与により胎児毒性が報告されており、「妊婦又は妊娠していると思われる人」は、相談するよう記載がされている。
- ・(④)は胎児に頻脈等を起こすことがあるので、妊婦は使用を避けた方がよい(相談事項)。また、母乳が出にくくなったり、母乳中に移行する。服用する場合には授乳を一時やめなければならない。
- ・(⑤)を配合している内服薬には、「心臓病、高血圧、若しくは腎臓病の診断を受けた人」、又は「むくみのある人」は相談するよう記載されている。
- ・(⑥)は制酸や胃粘膜保護を目的に配合され、その製剤には「長期連用しないこと」と記載される。特に「透析療法を受けている人」は使用できず、腎臓病の診断を受けた人は注意が必要(相談事項)。
- ・(⑦)は、「甲状腺機能障害の診断を受けた人」の場合、その血中濃度の調整に影響を及ぼすおそれがあるため、相談するよう記載されている。
- ・(⑧)は、妊婦や授乳婦は服用できない。「腎臓病、肝臓病の診断を受けた人」、「胃がん、胃・十二指腸潰瘍にかかったことのある人」は、相談するよう記載されている。
- ・(⑨)配合剤、トリメブチンマレイン酸塩配合剤は、ともに「肝臓病の診断を受けた人」は相談するよう記載されている。

A. カンゾウ(1日最大量原生薬として1g以上)	B. ピレンゼピン塩酸塩水和物	C. ウルソデオキシコール酸	D. ロートエキス
E. イトブリド塩酸塩	F. アルミニウム塩	G. カルシウム塩	H. 抗コリン成分
I. テブレノン	J. ソファルコン		

問5.【アドバイス】次の文章が正しいものには○を、誤っているものには×を、解答欄に記入して下さい。

- ①妊娠検査薬で添付文書どおり生理予定日1週間後に検査したところ陰性だったが、その後数日して悪心・嘔吐を繰り返しているという。妊娠初期にみられる症状があるのだから、胃腸薬以前に再度検査した方がよい。
- ②パウダー状でのみにくい生薬配合の胃腸薬は、オブラートで包んでのんだ方がよい。
- ③胸焼けするなら、まず食べ過ぎに気を付け、肥満を解消しましょう。喫煙は噴門を緩めるので禁煙も大事です。
- ④血圧が高くて塩分の制限中なら、重曹の入っている胃薬の連用は避けてください。